

2024年度新聞協会賞応募作品一覧

「ニュース」部門 23社30件（追加応募1件含む）

「写真・映像」部門 15社18件

「企画」部門 34社41件

合 計 46社89件

2024年度新聞協会賞応募作品一覧

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|---|-----------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| <p>朝日新聞社</p> <p>自民党派閥裏金問題取材班</p> <p>（代表）東京本社編集局社会部次長</p> <p>板橋 洋佳</p> | <p>自民党派閥の裏金問題をめぐる一連のスクープと関連報道</p> |
| <p>〈作品概要〉自民党主要派閥が政治資金パーティーで組織的に巨額の裏金を作り、政権中枢や党幹部も受領していた事実をスクープした。戦後政治で最悪レベルの不祥事となった問題の報道を終始リード。安倍派幹部らは全員辞任し、派閥解散や政治資金規正法改正につながった。</p> | |
| <p>毎日新聞社</p> <p>編集局社会部東京グループ専門記者</p> <p>遠藤 浩二</p> | <p>大川原化工機冤罪(えんざい) 事件を巡る一連の報道</p> |
| <p>〈作品概要〉社長らの起訴が取り消された大川原化工機を巡る冤罪事件について、独自入手した警視庁公安部の内部資料や捜査関係者の話を基に、捜査に問題がなかったかを問う調査報道を展開した。1年に及ぶ取材結果は、記者の一人称形式による連載記事にも仕立てた。</p> | |
| <p>読売新聞東京本社</p> <p>臓器受け入れ断念取材班</p> <p>（代表）編集局医療部次長 中島 久美子</p> <p>編集局科学部次長 木村 達矢</p> | <p>「移植見送り問題」を巡る特報</p> |
| <p>〈作品概要〉脳死者から提供された臓器の受け入れ断念が相次いでいることを明らかにした特報は、学会による初の実態調査へとつながり、国会でも問題として取り上げられることになったほか、それまで静観姿勢だった政府の方針を転換させる結果をもたらした。</p> | |
| <p>読売新聞東京本社</p> <p>「学習端末問題」取材班</p> <p>（代表）編集局社会部次長</p> <p>稲垣 信</p> | <p>学習用端末の個人情報管理問題を巡る一連の報道</p> |
| <p>〈作品概要〉小中学生に1人1台配備された学習用端末について、自治体の一部で子供の個人情報の保護に不備がある実態を明るみに出した。文部科学省が全ての教育委員会を対象に初の実態調査を行う方針を決めるなど、情報管理の対策強化につながった。</p> | |

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|---|------------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 読売新聞東京本社 供述誘導疑惑取材班 （代表）編集局社会部司法キャップ 森下 義臣 | 「特捜検事による供述誘導疑惑」を巡る一連のスcoop |
| 〈作品概要〉供述誘導疑惑の一連のスcoopは、東京地検特捜部検事が不起訴を示唆しながら容疑者に自白させる取り調べの実態を暴いた。最高検が検事の取り調べを不適正と認定したほか、取り調べの可視化の対象拡大など刑事司法制度の見直し議論も引き起こした。 | |
| 日本経済新聞社 1面企画「ポーラーシフト」取材班 （代表）米州編集総局部次長兼編集委員 阿部 哲也 | 「中国、核開発に転用か 日米欧が規制の工作機械63件」を巡る調査報道 |
| 〈作品概要〉日米欧の工作機械が中国の核兵器開発を担う中国工程物理研究院（CAEP）に渡った事実を公表資料から掘り起こした調査報道である。動画に映った工作機械をDMG森精機のドイツ子会社が作った製品と特定し、少なくとも63件がCAEPに渡った可能性を明らかにした。 | |
| 日本経済新聞社 金融取材班 （代表）編集 金融・市場ユニット金融グループ次長 小野澤 健一 | 特報「日銀、大規模緩和解除へ」と「金利のある世界」をめぐる一連の報道 |
| 〈作品概要〉2024年3月19日午前2時に日経電子版で「日銀、大規模緩和解除へ マイナス金利 長短金利操作ETF購入きょう決定」など、長期緩和策の終焉を1年がかりで立て続けに特報した。関連紙面で「金利ある世界」の意義を浸透させ、日本経済の転換点を詳述した。 | |
| 産経新聞東京本社 編集局経済部 黄金崎 元 編集局経済部 中村 智隆 | ビッグモーターと損害保険ジャパンの癒着をめぐる一連の報道 |
| 〈作品概要〉中古車販売大手のビッグモーター（BM）による自動車保険の保険金不正請求問題について、両社の内部資料を入手して報道するなど長年にわたる癒着の構造をあぶりだした。国民生活に不可欠な自動車保険を巡る不正の実態を示し、大きなインパクトを与えた。 | |

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|--|-------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 共同通信社 自民党裏金問題取材班 （代表）編集局社会部 守谷 季浩 | 自民党安倍派裏金事件に関するスクープ |
| 〈作品概要〉自民党安倍派の政治資金パーティー裏金事件で2022年4月に中止された資金還流を巡り、会長代理の下村博文氏が事務局長に再開を要求したとの派閥関係者の供述を特報した。還流再開は同8月の幹部協議で決まり、新たな基準が採用されたとの供述もスクープ。 | |
| 共同通信社 編集局特別報道室 高津 英彰 | 自民党茂木幹事長らの政治資金移動問題を巡る一連の報道 |
| 〈作品概要〉自民党の茂木幹事長らの国会議員関係団体が使途公開基準の緩い「その他の政治団体」に毎年多額の資金を移動し、使途がほとんど分からなくなっていることを特報。2007年法改正で導入された透明性ルールが骨抜きになっている実態を明らかにした。 | |
| 共同通信社 日銀金融政策取材班 （代表）編集局経済部 藤原 章博 | 日銀のマイナス金利政策解除の特報 |
| 〈作品概要〉日銀が17年ぶりの利上げとなるマイナス金利政策の解除を3月19日に開く金融政策決定会合で決める見通しとなったことをつかみ15日夜に特報。 | |
| 時事通信社 金融政策取材班 （代表）編集局経済部日銀クラブキャップ 宮木 建一郎 編集局経済部編集委員 宇山 謙一郎 | 「マイナス金利解除を柱とする日銀の金融政策転換」のスクープ |
| 〈作品概要〉マイナス金利解除を柱とする3月の日銀の金融政策転換をスクープした。11年に及んだ異次元緩和に終止符を打ち、17年ぶりに利上げした金融政策の歴史的な転換点で、初報から最終段階まで全て先んじて報道し、国内外に大きなインパクトを与えた。 | |

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|--|------------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 読売新聞大阪本社 編集局社会部 桑原 卓志 | 画像生成A I と「児童ポルノ」を巡る一連の報道 |
| 〈作品概要〉画像生成A I（人工知能）で作られた精巧な児童の性的画像が、国内サイトで大量に拡散していることを関係者取材やデータ分析で明らかにした。A I 画像は児童買春・児童ポルノ禁止法の原則対象外で、海外に比べて規制が緩い日本の現状について問題提起した。 | |
| 産経新聞大阪本社 編集局松山支局長（前和歌山支局） 前川 康二 | 「自民党青年局近畿ブロック会議後の会合で過激ダンスショー」のスクープ |
| 〈作品概要〉自民党若手議員が参加した和歌山県内での会合で、党の資金を使って露出の多い衣装をまとった複数の女性ダンサーを招いていたことを報じた。記事は、政治資金問題に揺れる政権与党に対する国民の不信をさらに高め、法改正に関する議論に寄与した。 | |
| 秋田魁新報社 統合編集本部報道センター政治経済部 藤原 剣 | 四国の料理や酒をけなした秋田県知事の放言に関する特報など一連の報道 |
| 〈作品概要〉秋田県の佐竹知事が講演で、四国の料理や酒をけなし、じゃこ天について「貧乏くさい」と発言したことを問題視して特報。批判が広がり、知事は臨時記者会見を開いて陳謝した。その後、秋田と四国の合同物産展が開かれるなど、新たな交流につながった。 | |
| 福島民友新聞社 東京電力福島第1原発の処理水放出取材班 （代表）編集局報道部長 飯沢 賢一 | 東京電力福島第1原発の処理水放出に関する一連の報道 |
| 〈作品概要〉東京電力福島第1原発で発生する処理水の海洋放出を巡り、焦点だった開始時期について「8月下旬の放出」を独自報道。政府が8月22日に関係閣僚会議を開き、放出時期を決定することも独自に報じた。放出後は消費者らの反応を詳報した。 | |

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|--|-----------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 中日新聞社 「恵」問題取材班 （代表）名古屋本社編集局社会部 細川 暁子 | 福祉事業会社「恵」の不正に関するスクープと、一連の報道 |
| 〈作品概要〉 障害者向けグループホームを全国展開する福祉事業会社「恵」を巡り、食材費の過大徴収や福祉サービス報酬の不正請求など複数の事実をスクープするとともに、利益優先がはびこる福祉ビジネスの実態や利用者の切実な声を続報で伝え、制度上の課題を指摘した。 | |
| 岐阜新聞社 リニア工事水位低下問題取材班 （代表）統合編集局報道本部 古家 政徳 | 「リニア工事による水位低下問題」のニュース |
| 〈作品概要〉 リニア中央新幹線のトンネル工事が進む岐阜県瑞浪市で井戸やため池の水位が低下し、事業主体のJR東海が地元で住民説明会を開いたことを取材で突き止めた。JRの対応に振り回される住民の憤りや報告遅れに不信感を募らす沿線自治体を追った。 | |
| 中国新聞社 「決別 金権政治」取材班 （代表）編集局編集委員室長 荒木 紀貴 | 河井事件の政権幹部裏金疑惑スクープなど「選挙の裏金」を巡る調査報道 |
| 〈作品概要〉 河井克行元法相による大規模買収事件で、当時の安倍政権幹部の4人が計6700万円の裏金を元法相に提供していた疑惑を示すメモを検察が押収していたことをスクープ。政策活動費や機密費など政権中枢の「裏金」から出ている可能性が高いことを報じた。 | |
| 読売新聞西部本社 陸自高機動車流出問題取材班 （代表）大阪本社編集局社会部主任（前西部本社社会部主任） 澤本 浩二 | 陸自高機動車の海外流出問題 |
| 〈作品概要〉 陸上自衛隊の防衛装備品である高機動車が海外に多数流出している事実を突き止め、国内外で現物を確認した上で、全国共通の1面トップ等で次々と不正流出の実態を報じた。本紙報道を受け、防衛省が調査結果と再発防止策を公表するなど、大きな反響を呼んだ。 | |

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|---|------------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 熊本日日新聞社 水俣病取材班 （代表）編集局次長 石貫 謹也 | 発言遮断問題と一連の水俣病ニュース報道 |
| 〈作品概要〉5月1日に熊本県水俣市であった水俣病犠牲者慰霊式後、環境相と懇談していた患者団体側の持ち時間が3分を超えたとして、環境省職員がマイクを切って発言を遮断した。熊本日日新聞はこの対応について2日付第2社会面トップで記事を掲載し、問題提起を続けた。 | |
| 南日本新聞社 水俣病取材班 （代表）編集局報道部 永山 一樹 | 水俣病「マイクオフ」に関する報道 |
| 〈作品概要〉熊本県水俣市で5月1日にあった水俣病被害者と環境相との懇談会で、被害者側の発言が3分を超えると、環境省がマイクの電源を切るなどして発言を遮っていた。多くの記者が現場にいたが、南日本新聞など一部の地方紙のみが翌日取り上げた。 | |
| 沖縄タイムス社 うるま市石川の陸上自衛隊訓練場建設問題取材班 （代表）編集局中部報道部 又吉 朝香 | うるま市石川の陸上自衛隊訓練場建設を巡る一連の報道 |
| 〈作品概要〉政府が「台湾有事」を強調し、南西諸島への自衛隊の新設・増強を急速に進める中、沖縄タイムスは2023年12月20日付でうるま市石川での訓練場建設計画をスクープ。その後、住民の動きや計画断念に追い込むまでをナマ記事や連載などで丹念に追った。 | |
| 琉球新報社 幻影の辺野古マネー取材班 （代表）北部支社北部報道グループ長 池田 哲平 | 辺野古新基地建設を巡る投資トラブルの実態を明らかにする一連のスクープ |
| 〈作品概要〉米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古新基地建設は、当初予定の2.7倍となる1兆円規模まで予算が膨らんでいる。巨額の「辺野古マネー」の利権を巡って、投資トラブルが頻発し、刑事事件化していることを調査報道で迫り、明らかにした。 | |

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|---|--|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| <p>日本放送協会 「引き取り手のない遺体」取材班 （代表）報道局社会部 飯田 耕太</p> | <p>「引き取り手のない遺体」をめぐる一連の報道</p> |
| <p>〈作品概要〉一人暮らしの高齢者の増加により引き取り手のない遺体への自治体の対応が急増。実際には親族がいるのに自治体によって知らぬ間に火葬、納骨されるトラブルが各地で相次ぐ実態を初めて明らかにし、「無縁・多死社会」の現在地と国の対応の遅れを指摘した。</p> | |
| <p>日本放送協会 報道局経済部 篠田 彩</p> | <p>ビッグモーターと損保ジャパンをめぐる一連のスクープ</p> |
| <p>〈作品概要〉ビッグモーターの調査報告書の全容を初めて明らかにし悪質な行為が横行していた実態を特報した。また損保ジャパン社長が自社の利益を優先し取引再開を決めた役員会議のやり取りの詳細も初めて入手し両社の癒着と顧客軽視の企業体質を問うスクープを特報した。</p> | |
| <p>TBSテレビ 重要指名手配「桐島聡」取材班 （代表）報道局社会部警視庁記者クラブキャップ 加賀 千草</p> | <p>連続企業爆破で重要指名手配「桐島聡とみられる男」身柄確保をめぐる一連の独自報道</p> |
| <p>〈作品概要〉連続企業爆破事件（1974～75）で特別指名手配されていた桐島聡容疑者の身柄確保をスクープした。さらに偽名で潜伏中の容疑者の動画や顔写真、生活実態を知る人のインタビューなどで空白の50年を埋める独自報道を展開した。</p> | |
| <p>日本テレビ放送網 報道局ニュース編集部主任（前中国総局） 森本 隼裕</p> | <p>北朝鮮IT技術者派遣 国連制裁破りの実態を取材</p> |
| <p>〈作品概要〉北朝鮮が核・ミサイル開発のため国連制裁を破り世界各地に送り込むIT技術者は年間数百億円を稼ぎ出すとされ世界中の政府やメディアが追跡してきた。日本テレビは中国・北京で彼らの活動拠点を特定。世界で初めて彼らが実際に活動する様子を撮影した。</p> | |

| 「ニュース」部門（23社30件） | |
|---|---------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| テレビ東京 半導体取材班 （代表）報道局取材センターチーフ・ディレクター 阿部 欣司 | 日本の半導体開発をめぐる一連の報道 |
| 〈作品概要〉生成AIの開発競争が激しさを増す中で必要な半導体。日本はかつてない規模とスピードで開発に力を注いでいる。政府の巨額支援や企業の新たな取り組みについて継続的に報道し、その背景や内容を放送や配信で伝えた。 | |
| 共同通信社（追加応募） 政局取材班 （代表）編集局政治部長 杉田 雄心 | 岸田首相の自民党総裁選不出馬のスクープ |
| 〈作品概要〉岸田文雄首相が自民党総裁選に出馬しない意向を固めたことを、正式発表前に速報した。どのメディアよりも早かった。「裏金事件の責任を誰かが取らないといけない」との退陣理由もいち早く報じた。表明の4日前に辞意を周囲に伝えていた経緯も明らかにした。 | |

2024年度新聞協会賞応募作品一覧

| 「写真・映像」部門（15社18件） | |
|---|------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 朝日新聞社 ガザ通信員 ムハンマド・マンスール | ガザの人々の日常を捉えた現地通信員による一連の写真ルポ |
| 〈作品概要〉イスラエル軍が2023年10月に始めたパレスチナ自治区ガザへの攻撃は、そこに暮らす3万7千人以上の命を奪い、未曾有の規模で市民生活を破壊した。日本メディアの現地入りが極めて難しい中、ガザで暮らす通信員が日常の現実と人々の表情をレンズで捉えた。 | |
| 毎日新聞社 編集局写真映像報道部写真グループ 和田 大典 | 「父と聖夜」 戦下の再会 ～避難の母娘 ウクライナへ～ |
| 〈作品概要〉2022年2月のロシアによる軍事侵攻でウクライナから日本に避難した母娘を継続取材。困難を乗り越え異国で暮らす姿を追う一方、祖国に残った父と聖夜を過ごすため約1年半ぶりに帰国した母娘に同行して家族の再会場面を撮影し、戦争の不条理を伝えた。 | |
| 毎日新聞社 編集局写真映像報道部（大阪在勤） 久保 玲 | 能登半島地震：帰省中の実家倒壊 ～妹は最期まで子供守り～ |
| 〈作品概要〉能登半島地震で実家が倒壊。犠牲となった妹の死を悲しむ男性の姿を記録した。妹は男性の長女と共に家屋の下敷きになり、長女に覆いかぶさるような状態で見つかったという。男性は家屋前に座り込み、妹と長女がよく一緒に遊んでいたおもちゃを見つめていた。 | |
| 読売新聞東京本社 編集局写真部 桐山 弘太 | 中国「防空識別圏」に軍艦、海自護衛艦が並走してけん制 |
| 〈作品概要〉中国が沖縄県・尖閣諸島を含む東シナ海上空に一方的に設定した「防空識別圏」（ADIZ）の境界線付近で中国軍艦を展開している。対抗する海上自衛隊は新型護衛艦を配備、国防の最前線で両国の艦船がにらみ合う現状を捉えた写真。 | |

| 「写真・映像」部門（15社18件） | |
|--|--|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 読売新聞東京本社 北陸支社金沢支局兼輪島支局 福原 悠介 | 「能登半島地震で倒壊したビル」のスクープ写真・映像 |
| 〈作品概要〉1月1日の能登半島地震により100人以上が犠牲になった石川県輪島市で、高さ約20mの7階建てビルが根元から倒れ、隣接する店舗兼住宅を押しつぶしている写真や映像を発生当日の夜に配信し、地震による被害の大きさをいち早く国内外に伝えた。 | |
| 日本経済新聞社 (NIKKEI Film) 蝕まれる日本アニメ 生成AI時代、横行する「新・海賊版」取材班 (代表) 編集 先端ビジュアルセンター戦略コンテンツグループ 山本 博文 | (NIKKEI Film) 蝕まれる日本アニメ 生成AI時代、横行する「新・海賊版」 |
| 〈作品概要〉生成AIと日本アニメをテーマにした映像作品。AIで作られたキャラクターの類似画像がネット上にあふれ、権利侵害の恐れがあることを問題提起した調査報道だ。さらに生成AIが漫画の一コマからアニメを作れるかを検証し、その可能性と新たな脅威を伝えた。 | |
| 産経新聞東京本社 能登半島地震「奇跡の生還」取材班 (代表) 写真報道局 桐原 正道 | 能登半島地震「生き埋め49時間 奇跡の生還から無事退院」一連のスクープ報道 |
| 〈作品概要〉能登半島地震の発生から約49時間後、79歳男性が倒壊家屋から奇跡的に救出された。男性は2カ月の入院を経て無事に退院。救出の決定的瞬間と退院後の生活取材した。救出した京都市消防局隊員も取材し、男性が隊員へ感謝の言葉を贈る一助となった。 | |
| 共同通信社 編集局経済部 高田 香菜子 | 石川・能登地方で発生した最大震度7の地震の写真速報 |
| 〈作品概要〉2024年1月1日に石川県能登半島地方を中心に発生した最大震度7の地震で、輪島市内にいた記者が地面に亀裂が入った中学校に避難した人たちを撮影、速報された写真は全国の新聞社の号外などに掲載され、多くの海外メディアにも使用された。 | |

| 「写真・映像」部門（15社18件） | |
|--|---------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 読売新聞大阪本社 編集局写真部次長 大久保 忠司 | 写真企画「震災 母子の13年」 |
| 〈作品概要〉東日本大震災発生から2日後の宮城県石巻市で、幼稚園に通う息子の安否が分からず、凍える体に毛布を巻いて立ちすくむ母親を撮った。翌日、母子は再会。以来13年、2人の歩みを追いかけた。息子は今春、航空自衛隊に入隊。感謝を胸に母のもとを巣立った。 | |
| 北海道新聞社 ドキュメントD取材班 (代表) 編集局写真映像部編集委員 金田 淳 | 写真グラフ・ドキュメンタリー動画「ドキュメントD」 |
| 〈作品概要〉北海道の「今」をさまざまなテーマで切り取る写真グラフを月1回掲載するとともに、10分前後のドキュメンタリー動画を同じテーマで作り、デジタルで公開している。紙面のQRコードから動画に誘導することで、読者が容易に動画も鑑賞できる。 | |
| 河北新報社 アーバンベア取材班 (代表) 編集局編集部 及川 圭一 | 仙台市中心部に現れたツキノワグマの撮影 |
| 〈作品概要〉市街地で餌を求める「アーバンベア」が問題となる中、仙台市中心部に出現したツキノワグマの撮影に成功した。場所は、観光客も多い仙台藩祖・伊達政宗の霊廟（びょう）「瑞鳳殿」に近い寺の境内。目撃情報はあったが、姿を捉えた報道は例がなく、貴重な記録となった。 | |
| 信濃毎日新聞社 「フォトジェニック～わたしのリアル～」取材班 (代表) 編集局写真映像部 中村 桂吾 | 大型写真連載「フォトジェニック～わたしのリアル～」 |
| 〈作品概要〉1990年代後半～2010年代前半に生まれ、インターネットが身近にある環境で育った「Z世代」。社会へ羽ばたく時期を迎え、時代の新たな主役として注目される。大型写真連載を通じ、価値観が多様化する時代に自分らしくあろうとする若者の内面に迫った。 | |

| 「写真・映像」部門（15社18件） | |
|--|---------------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 北國新聞社 編集局奥能登支社珠洲支局 谷屋 洸陽 編集局社会部兼写真部主任 三上 聡一 | 能登半島地震「珠洲市街地に押し寄せる津波、輪島朝市通り炎上」のスクープ写真 |
| 〈作品概要〉元日の能登半島地震直後に撮影した津波と大規模火災の写真計3点。珠洲市街地に押し寄せる津波を支局記者がスマホでとらえ、輪島朝市では燃えさかる炎を少人数で消火活動している姿をとらえた。元日発行の号外や翌2日付の特別夕刊に掲載し、惨状を伝えた。 | |
| 神戸新聞社 里へ取材班 （代表）編集局映像写真部 小林 良多 | 連載企画「里へ 人と自然のものがたり」 |
| 〈作品概要〉かつて絶滅が危ぶまれた兵庫のツキノワグマは、民家裏に現れるほど数が回復している。足かけ2年の取材の末、至近距離で捉えた姿は、変化し続けている人と自然の関係を物語る。本連載では足元の生き物、自然と結びつく人の営みを見つめ、共生の課題を探った。 | |
| 日本放送協会 報道局国際部中国総局カメラマン 畑 康人 | 北朝鮮「衛星」爆発 打ち上げ失敗の瞬間を撮影 |
| 〈作品概要〉中朝国境の丹東・東港に入った畑康人カメラマンは約20時間の警戒の末、発射された北朝鮮の「衛星」が突然、赤い閃光を発して爆発し、打ち上げ失敗に終わった瞬間を鮮明に捉えた。映像は直後の臨時ニュースで繰り返し放送し、内外多くのメディアに引用された。 | |
| 日本放送協会 報道局映像センター・取材グループカメラマン 大江 崇之 | 旧ジャニーズ事務所「性加害」会見 「NGリスト」の撮影 |
| 〈作品概要〉大江崇之カメラマンは2023年10月2日に旧ジャニーズ事務所が開いた「性加害」会見で、会場内を横切る関係者の手元の書類に遠距離からズームインし、複数記者の顔写真の載った指名「NGリスト」を撮影した。NHKは確認取材の上、4日にスクープとして報じた。 | |

| 「写真・映像」部門（15社18件） | |
|--|--------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 日本テレビ放送網 JAL機炎上事故取材班 （代表）報道局社会部長 勝田 真司 | 「JAL機炎上事故」衝突の瞬間映像を速報 |
| 〈作品概要〉1月2日に羽田空港で発生したJAL機炎上事故で、事故の瞬間の映像をいち早く地上波で速報。事故についてほとんど情報がない中、旅客機が着陸する瞬間に炎があがる様子を捉えた映像は、のちに海保機との衝突と分かる事故の状況を早く正確に視聴者に伝えた。 | |
| フジテレビジョン 蕨市郵便局立てこもり事件取材班 （代表）報道局撮影中継取材部カメラマン 五十嵐 誠紀 | 「蕨市郵便局立てこもり事件」拳銃を握る犯人を撮影 |
| 〈作品概要〉病院で発砲後、郵便局で局員を人質に男が立て籠った。出入口が見える少し離れた場所に取材車両を止め、ジャーゴ姿で銃を振りかざす男を車内から撮影した。銃を持ち立て籠る犯人の映像は当社のニュース番組だけでなく、新聞社やネットメディアでも利用された。 | |

2024年度新聞協会賞応募作品一覧

| 「企画」部門（34社41件） | |
|--|------------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| <p>朝日新聞社 「宮沢喜一日録」プロジェクトチーム (代表) 教育政策室長 喜多 克尚</p> | <p>連載企画「宮沢喜一日録 戦後政治の軌跡」</p> |
| <p>〈作品概要〉宮沢喜一元首相の40年間にわたる行動記録を入手し、当時の朝日新聞や国会議事録、首相動静と横断検索できるデータベースを開発。東京大学の御厨貴名誉教授ら政治学者13人と共同研究を進め、その成果を独自の取材と合わせて紙面とデジタルサイトで発信した。</p> | |
| <p>毎日新聞社 編集局社会部東京グループ専門記者 春増 翔太</p> | <p>連載「ルポ路上売春」及び悪質ホスト問題を巡る一連の報道</p> |
| <p>〈作品概要〉東京都新宿区歌舞伎町の路上に立ち、男性客と交渉して売春をする女性たちの生い立ちや売春に至るまでの経緯、抱えてきた生きづらさを描いたルポ。2年間にわたり取材し、女性らを売春へ導く悪質ホストの存在も浮かび上がらせた。</p> | |
| <p>読売新聞東京本社 J R 考取材班 (代表) 編集局経済部次長 鹿川 庸一郎</p> | <p>連載企画「J R 考」</p> |
| <p>〈作品概要〉国民の足として欠かせないJ R という企業が、人口減少という課題に直面し、都市の稼ぎで地方路線を維持する構図が成り立たなくなった姿を各地での取材で浮かび上がらせた。ローカル線存廃を検討する新たな法律制定にもつながる議論を起こした。</p> | |
| <p>読売新聞東京本社 「情報偏食」取材班 (代表) 編集局社会部次長 高沢 剛史</p> | <p>連載企画「情報偏食」を巡るキャンペーン</p> |
| <p>〈作品概要〉ソーシャルメディアの普及により、自分が欲しい情報だけを見聞きする「情報偏食」が進んでいる。偏った情報摂取がアテンション・エコノミーを支えるだけでなく、人々と社会の分断を深めるさまを浮き彫りにし、民主主義を脅かしていることに警鐘を鳴らした。</p> | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|---|-------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| <p>日本経済新聞社</p> <p>OSINT（オープンソースインテリジェンス）取材班 （代表）編集 先端ビジュアルセンター戦略コンテンツグループ 山本 博文</p> | OSINTと3D表現技術による新たなデジタル報道手法の開拓 |
| <p>〈作品概要〉1月の羽田空港での日本航空機と海上保安庁機の衝突事故および、昨夏に始まった福島第1原子力発電所の処理水の海洋放出に関する2本のコンテンツを通じ、オープンソースインテリジェンスと3D表現技術を活用したデジタル時代の新たな報道手法を開拓した。</p> | |
| <p>日本経済新聞社</p> <p>「テクノ新世」取材班 （代表）編集 国際報道センター副グループ長 川合 智之</p> | 連載企画「テクノ新世」 |
| <p>〈作品概要〉急速に進化する人工知能（AI）や生命科学など、技術が人類の覇権を脅かす時代が到来した。人間はテクノロジーを操るのか、操られるのか。「テクノロジーが覇権を握る時代」を地球史の新たな年代記「テクノ新世」と定義し、技術論の枠を超えた文明論を展開した。</p> | |
| <p>産経新聞東京本社</p> <p>「移民」と日本人取材班 （代表）編集局地方部編集委員兼デジタル報道部編集委員 徳光 一輝</p> | 「移民」と日本人 |
| <p>〈作品概要〉わが国の「移民問題」はほぼ全メディアが「共生」「多様性」という横並び報道しかせず、負の部分にほとんど触れていない。ともすれば「外国人差別」との批判も受けかねない中、起きている現実を誰も報じなくてよいのかという強い問題意識で取材に取り組んだ。</p> | |
| <p>産経新聞東京本社</p> <p>「民主主義の形」取材班 （代表）編集局編集委員兼外信部インド太平洋特派員 岩田 智雄</p> | 民主主義の形 |
| <p>〈作品概要〉中国やロシアといった専制主義勢力が国際秩序を踏みにじる動きを活発化させている。基本的人権や自由な言論、法の支配を保障する民主主義の価値を守り抜くため、民主主義の現状を紹介し、あるべき未来を編集局の総力を挙げて1年かけて考えた。</p> | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|---|--------------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 共同通信社 「中国社会は今」取材班 （代表）中国総局長 芹田 晋一郎 | 連載企画「中国社会は今」 |
| 〈作品概要〉中国では10年を超える習近平指導部の下、監視や言論統制が強まり、社会は不透明感と息苦しさを増す。AI発展で「人間不在」の超スマート社会への移行も加速。一般の市民は何を考え、どう生きているのか。現場目線で伝え「永遠の隣人」の心の内に迫った。 | |
| 産経新聞大阪本社 京アニ裁判取材班 （代表）編集局社会部次長 宝田 良平 | 京アニ裁判詳報から電子書籍「妄想の果て 奪われた夢」へのWEBサイト展開 |
| 〈作品概要〉京都アニメーション放火殺人事件の裁判において、WEBサイトで被告人や証人の証言を詳報するとともに、発生から5年の節目の前には公判の全容を一体的に読める無料の電子書籍を作成。重大事件の裁判過程をWEB上で一気に読める新たな裁判報道を示した。 | |
| 北海道新聞社 気候異変取材班 （代表）編集局報道センター部次長 平畑 功一 | 連載企画「気候異変」 |
| 〈作品概要〉北海道の陸と海の異変が、年を追うごとに顕著になってきた。日本の食糧基地で深刻化する気候変動は、全国の食卓の風景をも変えかねない。厳冬の美しさなど北海道特有の四季の姿や観光、生態系にも大きな影響が出始めている。その最前線を報告した長期連載。 | |
| 東奥日報社 編集局付編集委員 斉藤 光政 | 連載企画「Sawada 1964 沢田教一が撮ったアオモリ」 |
| 〈作品概要〉青森市出身の報道写真家でピューリツァー賞カメラマン沢田教一。戦場カメラマンとして知られる沢田は34年の短い人生の中で何を求め、何を考えてシャッターを切ったのか。東奥日報が発掘した未公開写真1500枚を手がかりにジャーナリスト沢田の視点を探る。 | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|--|----------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 岩手日報社 「双星 夢翔る 2人のメジャーリーガー」取材班 （代表）編集局報道センター運動部長 小田野 純一 | 双星 夢翔（かけ）る 2人のメジャーリーガー |
| 〈作品概要〉ともに米大リーグを舞台に活躍する岩手県出身の野球選手、大谷翔平選手と菊池雄星投手を高校時代から長年取材してきた地元紙の蓄積を生かし、先入観や常識を打破してきた2人の足跡をたどるとともに、岩手、そして日本のパイオニアに成長し得た要因を探った。 | |
| 河北新報社 編集局せんだい情報部、編集部、経済部、写真映像部 （代表）編集局せんだい情報部長 大泉 大介 | R e 杜（もり）のまち |
| 〈作品概要〉仙台市中心部で大規模再開発が活発化する中、市民が主体的にまちづくりに関わる機運を高める報道を目指した。若者の東京流出、街のミニ東京化の潮流を変えるべく、記者もまちづくりの一員となり街の課題と話題を足元から掘り起こし多面的に報じた。 | |
| 秋田魁新報社 「地方創生」取材班 （代表）統合編集本部報道センター政治経済部部長代理 相沢 一浩 | 連載企画「地方創生 失われた10年とこれから」 |
| 〈作品概要〉「地方創生」は成果を挙げないまま10年を空費した。全国最速で人口減少が進む秋田から失政の背景を検証。スローガンに終わった「地方創生」を乗り越え、「変化」と「希望」に根ざした人口定常型社会に地方が主体的に軟着陸していく道筋を提言した。 | |
| 福島民報社 霞む最終処分取材班 （代表）編集局長 角田 守良 | 連載「霞（かす）む最終処分」と放射性廃棄物処分に関する一連の報道 |
| 〈作品概要〉東京電力福島第1原発の処理水海洋放出で、多くの福島県民が反対した背景には政府の「その場しのぎ」の対応への不満があった。福島、そして全国の問題である放射性廃棄物の最終処分の実現へ、地方と国はどう向き合うべきか。現場目線で政府の姿勢を問い直す。 | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|---|---------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 福島民友新聞社 「環境考察」取材班 （代表）編集局次長 中田 和宏 | 連載企画「環境考察」 |
| <p>〈作品概要〉 県民の暮らしや動植物の生態系など、地球温暖化の影響が多方面に広がっている。さらなる温暖化を食い止めるためにどう行動するべきか。海や森、気象など身近な変化から環境問題について考え、危機意識を持つことで解決策を探っていく。</p> | |
| 茨城新聞社 連載「いばらき減少時代を生きる」取材班 （代表）鹿嶋支社編集部長 小池 忠臣 | 連載「いばらき減少時代を生きる」 |
| <p>〈作品概要〉 本格的な「減少時代」に入った。明治期以降、経験のない規模と速さで縮む地域。その現実を直視し、行政、経済、暮らしを維持するための処方箋が求められる。悲観するのではなく、新たな価値観や工夫により、未知の社会に向かって生きる地域の姿を伝える。</p> | |
| 下野新聞社 編集局子どもの希望取材班 （代表）編集局社会部長 石田 聡 | 希望って何ですか 続・貧困の中の子ども |
| <p>〈作品概要〉 子どもの貧困対策推進法施行を機に10年前に連載した企画の続編として、困難を抱える子どもを取り巻くこの10年に迫り、大人になった当時の子どもをはじめ、今を生きる子どもと親の心情、対策の進捗に迫り、子どもの貧困解消を目指した3つの提言をまとめた。</p> | |
| 山梨日日新聞社 甲府市の殺人放火事件取材班 （代表）編集局政経部部長（前社会部部長） 樋川 義樹 | 「特定少年」初の起訴、死刑判決～甲府市の殺人放火事件を巡る報道 |
| <p>〈作品概要〉 甲府市の殺人放火事件は19歳の「特定少年」の実名が初めて公表され、死刑判決を受けた裁判史に残る事件となった。当事者・読者が「隣人」の地方紙が事件を伝える葛藤に正面から向き合い、丁寧な説明を尽くし、読者と共に「大人とは何か」を考え続けた。</p> | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|--|----------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 静岡新聞社 「最後の砦」取材班 （代表）編集局社会部 佐藤 章弘 | キャンペーン連載「最後の砦 刑事司法と再審」 |
| 〈作品概要〉なぜ、こんなにも時間がかかるのか。一家4人を殺害したとして死刑が確定した袴田巖さんの再審を巡る経過。戦後一度も改正されていない再審法（刑訴法の再審規定）の不備、改正が拒まれてきた背景を明らかにし、立法府の役割を軸に改正実現の道筋を探った。 | |
| 信濃毎日新聞社 「鍬を握る」取材班 （代表）編集局報道部次長 島田 隆一 | 連載企画「鍬（くわ）を握る 満蒙開拓からの問い」 |
| 〈作品概要〉「国家」や「みんな」が生み出す大きな流れや空気に、一人一人が自らの意思や判断で向き合えるか——。戦時中の満蒙開拓の歴史は、今に問いかける。全国最多の開拓団員を送り出した長野県から、記憶を次世代につなぎ、「戦後」であり続けるための視座を探る。 | |
| 中日新聞社 能登半島地震取材班 （代表）常務取締役編集担当 白田 信行 | 能登とともに—令和6年能登半島地震に係る一連の報道— |
| 〈作品概要〉元日に発生した能登半島地震をめぐり、ニュースを軸とする災害報道にとどまらず、被災地を発行エリアとする北陸中日新聞と中日新聞、東京新聞が連携して被災者に心を寄せる取材を徹底し、能登を支え、ともに難局を乗り越えるキャンペーン報道を展開した。 | |
| 新潟日報社 長期連載企画「誰のための原発か 新潟から問う」取材班 （代表）編集局報道部軟派デスク 桑原 大輔 | 長期連載企画「誰のための原発か 新潟から問う」 |
| 〈作品概要〉新潟県から主に首都圏に電気を送ってきた東京電力柏崎刈羽原発で、再稼働の準備が進められている。原発は安全なのか。県民はリスクを負わされているだけではないのか。災害やテロへの対応、立地地域へのメリットなどを検証し、誰のための原発なのかを問う。 | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|---|---------------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 北國新聞社 能登半島地震取材班 （代表）編集局主幹 宮本 南吉 | 能登半島地震報道と連載「1・1大震災 日本海側からのSOS」 |
| 〈作品概要〉元日から一貫して「被災者の命を守る」「犠牲者の生きた証しを残し、被害の重大性を伝える」ため報道してきた。「日本海側からのSOS」を1月7日から毎日載せ、地震以前から人口減少社会の最前線だった能登半島の現状を通し、日本全体の課題を検証している。 | |
| 京都新聞社 京都アニメーション放火殺人事件取材班 （代表）編集局報道部社会担当部長 渋谷 哲也 | 京都アニメーション放火殺人事件連載企画「理由」と公判報道 |
| 〈作品概要〉36人が犠牲となった京都アニメーション放火殺人事件の裁判に合わせ、なぜ被告の男は凶行に及び、社会は惨劇を防げなかったのか、という問いに、シリーズ連載で迫った。また全23回の公判全てに特設ページを設けて詳報を載せ、未曾有の事件の記録に努めた。 | |
| 神戸新聞社 「未来を変える」取材班 （代表）編集局報道部専任部長 森本 尚樹 | キャンペーン報道シリーズ「未来を変える —— 脱炭素への挑戦」 |
| 〈作品概要〉地球温暖化による環境変化と、その抑止を目指す脱炭素の波は、地域の社会や経済にさまざまな相克と矛盾をもたらしている。神戸の石炭火力発電所増設問題をはじめ、兵庫県内各地の現場から実情を見つめ、危機が迫る地球の「未来を変える」可能性を探った。 | |
| 山陽新聞社 「交通問題」取材班 （代表）編集局報道本部長 中原 一夫 | リ・デザイン 生活交通と地域 |
| 〈作品概要〉地域公共交通が危機に直面している。岡山県ではJR芸備線で存廃問題が浮上し、路線バスや離島航路の廃止・減便も相次ぐ中、人々の暮らしへの影響を探るとともに、交通事業者や自治体の苦悩を取材。持続可能な交通網を再構築していくための打開策を考える。 | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|--|------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 山陰中央新報社 「学びの変革」取材班 （代表）編集局報道部長 松本 直也 | 学びの変革～人口減少時代の教育～ |
| 〈作品概要〉人口減少が進む島根の教育が岐路を迎えている。学校統廃合、学力の低迷、教員不足…。横たわる課題に今、立ち向かわなければ、衰退は目に見えている。子どもたちと地域の将来をより良くするため、守りから攻めへ。教育戦略の在り方を提言する。 | |
| 徳島新聞社 統合編集グループ社会・地方部 木下 真寿美 | 連載「参政権78年——女性の現在地」 |
| 〈作品概要〉昨年の統一地方選以降、徳島県内の地方議員選挙では子育て中の女性の立候補や、女性候補の上位当選が目立つ。それでも県内議会の総定数に占める女性は15%。日本で女性が初めて参政権を行使してから78年もたつのになぜ。立候補の壁と打開策を探った。 | |
| 高知新聞社 「明日の足」取材班 （代表）編集局次長兼報道部長 大山 哲也 | 連載企画「明日の足 高知の公共交通を考える」 |
| 〈作品概要〉人口減が進む高知県で、公共交通の今とこれからの考えた長期連載。利用者減と人手不足に苦しむ路線バス、JR赤字路線の存廃問題、県都・高知市を走る路面電車の今後など、それぞれの課題を探り、全国の事例も踏まえて「明日の足」のあり方を展望した。 | |
| 西日本新聞社 地方自治取材班 （代表）報道センター長 川原田 健雄 | カワルカ地方自治——福岡の現場から |
| 〈作品概要〉人口減・超高齢化が進む地方の姿に迫るキャンペーン。福岡県の町では安定志向の世論を背景に首長が多選を重ねて「1強」化。情報公開や入札結果公表を制限する実態を特報した。成長が続く福岡市でも孤独死が相次ぎ、曲がり角を迎えた開発行政をレポートした。 | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|---|----------------------------|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 西日本新聞社 いじめ問題取材班 （代表）編集局報道センター 古川 大二 | キャンペーン報道「いじめ問題を追う～防止法10年～」 |
| 〈作品概要〉福岡市の女子高校生がいじめ被害を訴える遺書を残し自殺したものの学校や福岡県が対応を放置した問題を機に、SNSで当事者や教員とつながる双方向型報道でいじめ問題について寄せられた全ての情報に対応。いじめ防止対策推進法の課題を浮き彫りにした。 | |
| 長崎新聞社 「縮むながさき 人口減少を考える」取材班 （代表）論説委員会論説委員 堂下 康一 | 連載企画「縮むながさき 人口減少を考える」 |
| 〈作品概要〉離島や半島を多く抱える長崎県で人口減少が加速している。その影響は産業、教育、医療、地域活動など多岐に及び、深刻さが増している。いかにして社会経済活動を維持するのか。現状と課題を探り、次世代のための暮らしやすさや産業人材の確保などを考えた。 | |
| 宮崎日日新聞社 連載企画「縮小社会 宮崎の未来図」取材班 （代表）編集局報道部次長 徳留 亜弥 | 連載企画「縮小社会 宮崎の未来図」 |
| 〈作品概要〉宮崎県は、2030年までに人口100万人を割り込むとされている。人口減による暮らしへの影響を伝え、男女格差との関係を考察。国や自治体の施策も検証・分析した上で、地域維持の取り組みを追い、縮小社会における持続可能な宮崎県の未来像を提言した。 | |
| 沖縄タイムス社 辺野古軟弱地盤取材班 （代表）編集局社会部 大野 亨恭 | 連載企画「検証 辺野古軟弱地盤」 |
| 〈作品概要〉沖縄県名護市辺野古での米軍新基地建設で、国が埋め立て設計の変更承認を代執行した。新たに埋め立てようとする海域にはマヨネーズ並みの軟弱地盤が広がる。最深90m、約7万7000本の砂杭を打ち込む前例のない難工事は実現可能なのか、検証する。 | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|--|---|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 琉球新報社 南西シフト取材班 （代表）統合編集局政経グループ政治班 知念 征尚 | 沖縄への自衛隊配備増強など防衛力強化に関する一連の報道 |
| 〈作品概要〉沖縄で進む自衛隊配備の増強、米軍との連携強化を細かに追い、増大する基地負担を浮き彫りにした。特定利用施設の指定や土地利用規制法の規制を含め、繰り出される政府施策によって従来の負担が県民生活により影響を及ぼすものへと変質していくことを報じた。 | |
| 日本放送協会 ETV特集「膨張と忘却」取材班 （代表）福岡放送局 石濱 陵 | ETV特集「膨張と忘却 ～理の人が見た原子力政策～」 |
| 〈作品概要〉長年国の原子力政策に関わった吉岡齊氏が残した未公開資料「吉岡文書」が見つかった。「熟議」や「利害を超えて議論を尽くすこと」を求め続けた吉岡氏は何を見たのか。独自に入手した内部文書や関係者の証言などをもとに国の政策決定の舞台裏に迫る。 | |
| 日本放送協会 NHKスペシャル・ETV特集「“冤罪”の深層」シリーズ 取材・制作班 （代表）第2制作センター（文化）エキスパート 石原 大史 | NHKスペシャル・ETV特集「“冤罪（えんざい）”の深層」シリーズ |
| 〈作品概要〉4年前、軍事転用可能な機械を不正に輸出したとして中小企業の社長ら3人が警視庁公安部に逮捕され、のちに異例の起訴取り消しとなった冤罪事件。公安部の中で何が起きていたのか。関係者の証言や警察の内部資料をもとに徹底取材で検証した3本シリーズ。 | |
| 日本放送協会 NHKスペシャル「調査報道・新世紀」取材班 （代表）報道局社会番組部チーフリード 植松 由登 | NHKスペシャル 調査報道・新世紀 File3 子どもを狙う盗撮・児童ポルノの闇（前編・後編） |
| 〈作品概要〉SNS上の「盗撮コミュニティ」への潜入取材や事件を起こした加害者への独自取材、他メディアとの共同取材を駆使し、盗撮や児童ポルノなど社会に広く蔓延している子どもたちへの違法な性的搾取の実態を告発。2週連続の報道で社会にインパクトを与えた。 | |

| 「企画」部門（34社41件） | |
|--|---|
| 被推薦者 | 作 品 名 |
| 日本放送協会 下山事件取材班 （代表）プロジェクトセンターシニアリード 松本 卓臣 | NHKスペシャル 未解決事件File.10 「下山事件」 第一部 ドラマ、第二部 ドキュメンタリー |
| <p>〈作品概要〉 “戦後史最大のミステリー”とされた「下山事件」の真相にドラマとドキュメンタリーで迫る。取材班は捜査の内幕を綴った極秘資料を初めて入手。アメリカの機密文書、元工作員の証言を徹底取材し、事件の背後にあった占領期の闇を独自スクープで描き出す。</p> | |